鳥羽離宮跡発掘調査

―― 現地説明会資料 ――

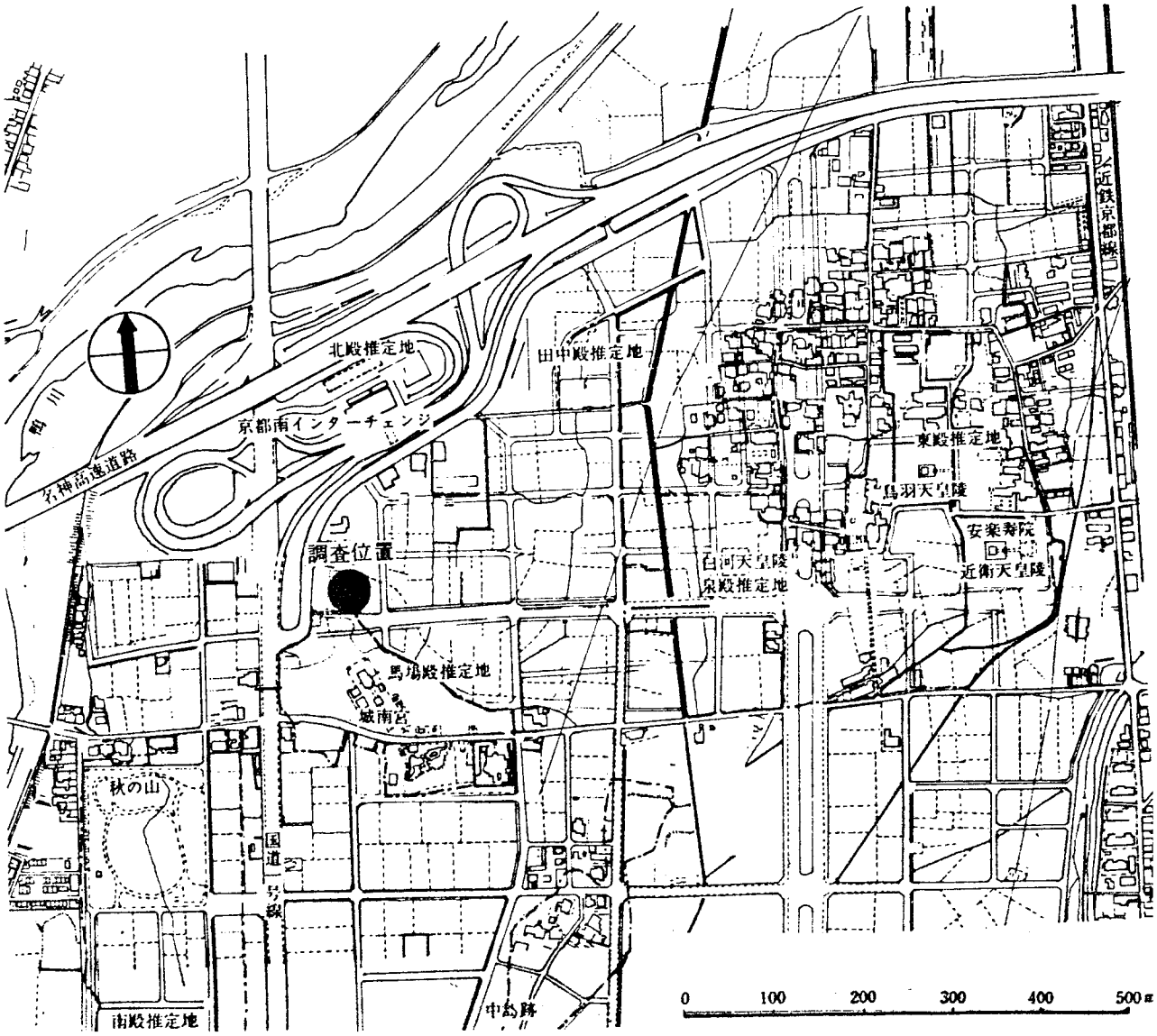
1979、2、3

財団法人　京都市埋蔵文化財研究所

I 調査の概要

この調査は、財団法人 京都市埋蔵文化財研究所が、(株)鯛池の開発工事に先だって行なった発掘調査である。昨年夏、当調査地の北、約30mの地点で発掘調査を行なった。その結果建物跡の雨落ち溝が発見された。それは東北隅をなすものであった。加えて、それより東方に石垣(基壇の土留め)や池跡などを確認した。

第1図 鳥羽離宮跡推定地域図



今回の調査はここにそれらの遺構が遺存しているかどうかを確かめ、なおその規模を明らかにすることを目的として、昨年の暮れ12月6日より開始した。現在までのところ、調査面積は1100㎡で上記と同様な遺構を見つけ、東南の隅を示し、溝の長さ約43mに及んでおり、なお継続中である。

Ⅱ 遺構の概要

この付近は現在ほぼ平坦な水田面をなしているが、地層の断面観察より見つけた遺構に関する旧地形は北から南へ徐々に下がり低湿地となっている事が明らかになった。現在の水田面からその旧地形までの各層は、ほとんど遺物を含まない。しかしながらこの遺構の整地層上面には、平安時代後期の瓦が大量に認められ、整地層内からは平安時代前期や古墳時代の遺物が出土した。この遺構の造営時以前の遺構を確認のため、一部分掘り下げた結果、2時期（平安時代前期、古墳時代）の遺構面が認められた。

この検出された遺構には建物基壇、雨落ち溝、石垣、堰と瓦溜めがある。建物基壇跡は、後世の削平が著しく礎石や根固め石等の痕跡は、ほとんど検出し得な

かった。ただ、礎石らしい花崗岩1個を見ている。

基壇の構築地業は掘り下げた一部で、頭大の玉石が見られ、顕著な版築はなかった。この地業は先に見たものと若干異なっている。

雨落ち溝は、南東の隅にあたる部分を検出した。その溝は河原石を用いて側石とし、それぞれ2列をなしている。その溝の内のりは30cmである。この雨落ち溝の東南の石垣(基壇の土留め)は大きさ80～90cmの質を異にした石を一段に立て並べたものである。この雨落ち溝と石垣とは昨年夏に見たものと実測上一直線をなすもので、雨落ち溝の北と南の距離は約43mである。

ところで、この溝は基壇の東面と、北、南面の一部を示すもので、西面は調査されていない。この西面の調査を待って全規模が明らかになるだろう。

石垣跡より外方約9mの箇所に、素掘りの堀を見つけた。この堀は幅約2m、深さ1.20mで、その内からは、雨落ち溝上面で出土した瓦と同様のものが多数出土した。調査区の北から南への傾斜があり、水が溜っていた気配が認められる。

なお平安時代前期の検出遺構は落ち込みと溝で、古墳時代の検出遺構は竪穴住居跡である。落ち込

みは深さ20cm前後で浅いが、出土遺物は多く、土師器、須恵器、黒色土器、灰釉・緑釉陶器等、多種にわたっている。今回検出された竪穴住居跡は、この東北方に於いて検出したものと同種である。

Ⅲ　この遺構は鳥羽離宮金剛心院の九躰堂か

1、この位置にあったと考えられる建物としては、『兵範記』仁平3年(1153)10月18日の条で、田中新御所の南の大路の南で、馬場殿の北口南北60丈(約180m)東西50丈(約150m)の大きさを点じ、釈迦堂(三間四面)、阿弥陀九躰堂(九間四面)と寝殿その他の雑舎をたて、その日上棟式を行なったことが記されているものが考えられる。

2、遺構は雨落ち溝と思われるもの、それより2.8m出た位置にこれに沿って作られた石積み(但し普通の1個の立石)の列があり、東、南をめぐっている。さらに約9mの所には、幅約1.5m深さ1.2mの堀がある。いずれもここにあった建物に対する施設であろう。

3、これは昨年9月に調査した同様の遺構(但し堀を除く)と同一線をなすので同一のものとみる。それにより北溝と南溝との間は42.6mとなり、雨落ち溝から、軒の出を約1.5mと見て、外側柱間の距離は39.6mとなる。これは、

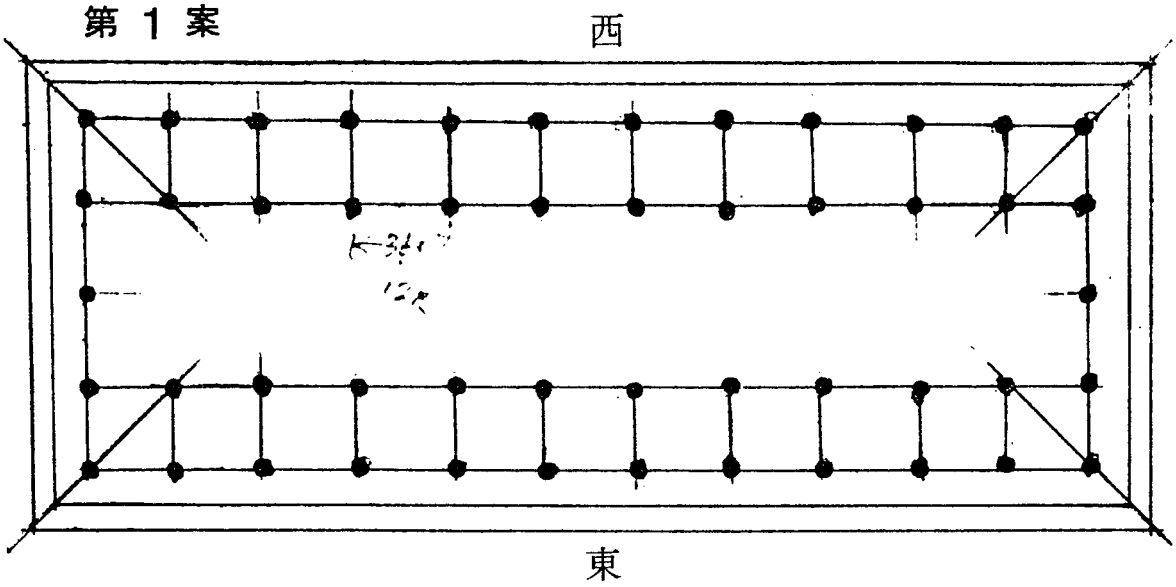
上記の九躰堂にあたる。すなわち母屋9間とあるから桁行は11間である。したがって1間の寸法は3.6m(約12尺)となる。これは丈六佛九躰を安置するのに適切な寸法である。

4、これに対して普通には第1案のような平面を考えるのである。したがって第1案の礎石あるいはそれを抜いた痕跡を求めたのであるが、結局、得られなかった。しかし東の雨落ちから約7.1m、南の雨落ちから8.3mの地点に風化した花崗岩の直径0.7mの礎石と思われるもの(第2案のA)がある。その位置は南からすれば、上記の寸法で3筋目の柱通りになるが、東からすれば、そうとはならず、約1.2mの差で東に位置することになる。とすれば、B案に示すものが得られる。これは平安時代末のものとしては全く例を見ない柱配置をとることになる。

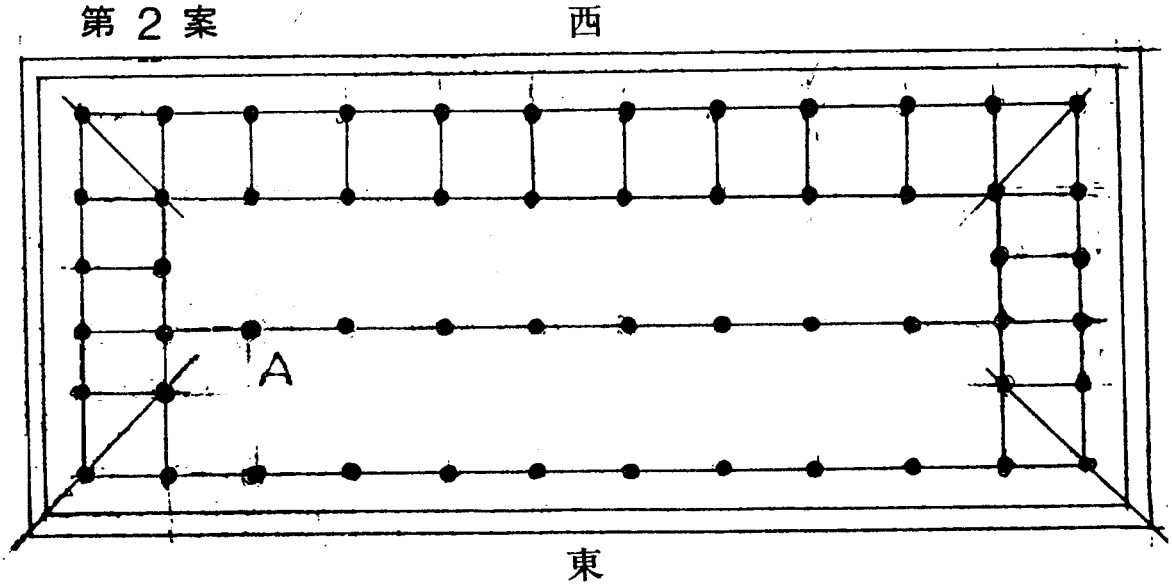
このいずれになるか、今までの調査は間口のみをわからせ、奥行については未調査であるから第3次ともなるような調査を行なったときに解決できよう。

いずれにせよ九躰堂であり、金剛心院のものであろう。

第１案



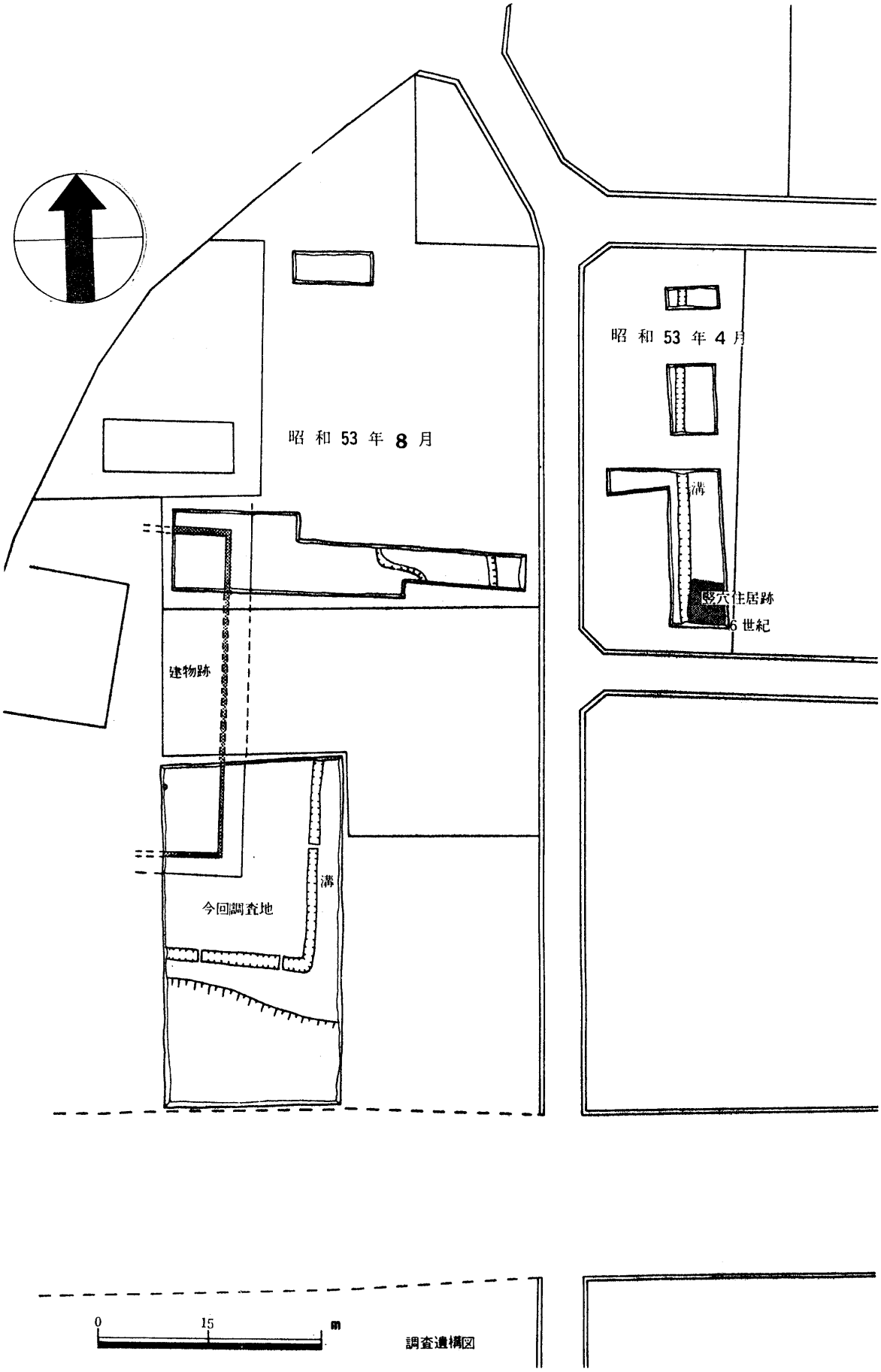
第２案



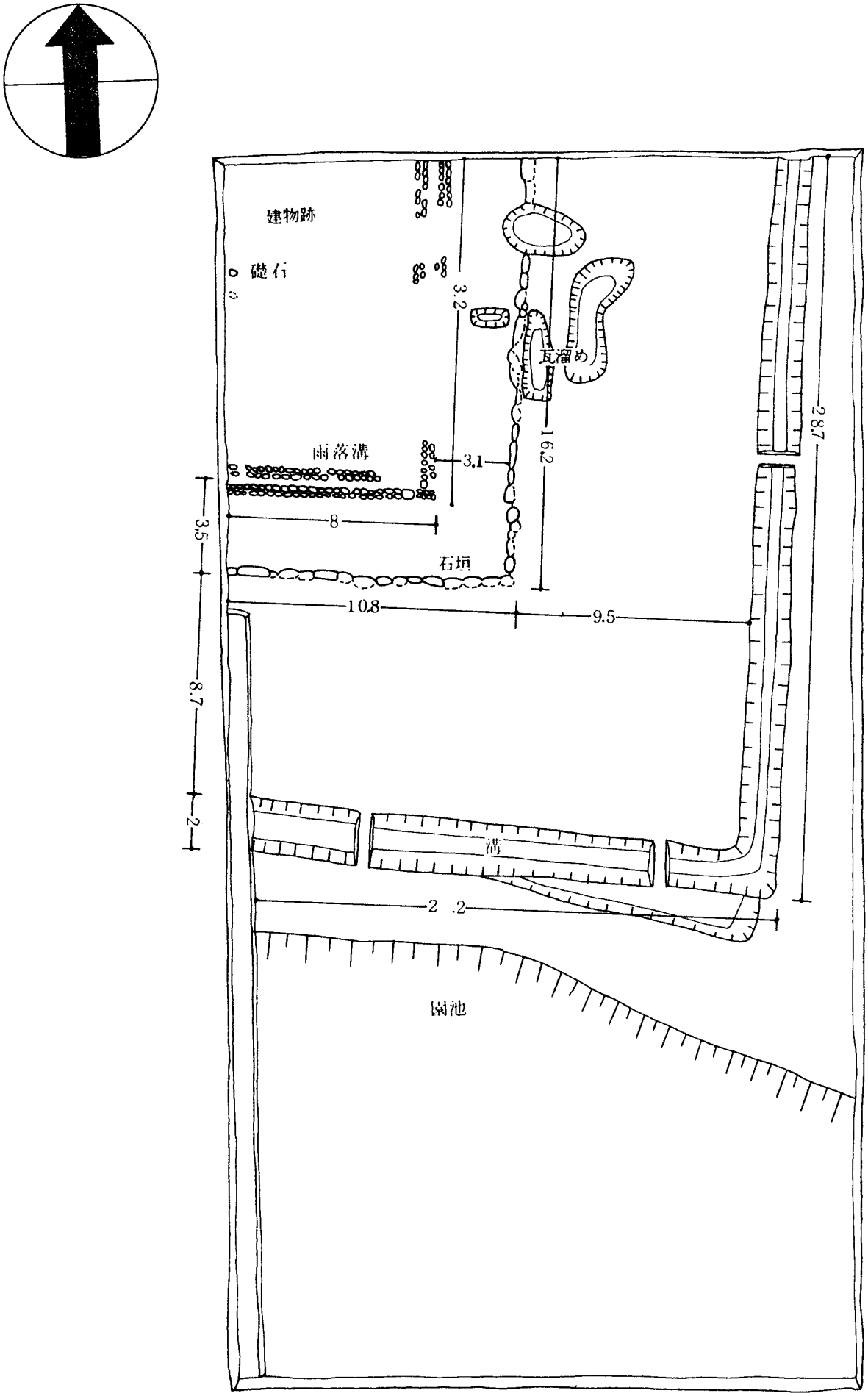
第　４　図

西暦	年号	院政	鳥羽離宮	六勝寺 その他
900				
1000			この頃、鳥羽に藤原時平の山荘あり	
1053	天喜 1			藤原頼通の平等院阿弥陀堂
1086	応徳 3		藤原季綱の鳥羽山荘を以て後院の経営	
1087	寛治 1	白河	鳥羽南殿	
1088	2		鳥羽北殿	
1090	4		鳥羽馬場殿	
1092	6		鳥羽泉殿（東殿）	
1098	承徳 2		閑院の屋舎を鳥羽北殿に移す	
1101	康和 3		南殿・証金剛院御堂供養	
1102	4			尊勝寺供養
1109	天仁 2		泉殿三重塔供養	
1111	天永 2		泉殿多宝塔供養	
1118	元永 1	鳥羽		最勝寺供養
1129	大治 4			円勝寺供養
1131	天承 1		泉殿成菩提院御堂供養	
1136	保延 2		北殿勝光明院御堂供養	
1137	3		東殿安楽寿院御堂供養	
1139	5		安楽寿院三重塔供養	成勝寺供養
1140	6		多聞天堂供養	
1147	久安 3		安楽寿院九体阿弥陀堂供養	
1149	5			延勝寺供養
1154	久寿 1		田中殿金剛心院釈迦堂・阿弥陀堂供養	
1155	2		安楽寿院不動堂・田中殿小御堂供養	栢ノ杜遺跡八角円堂
1157	保元 2	後白河	金剛心院新御堂供養	
1158	3		安楽寿院新御塔供養	保元の乱
1159	平治 1			平治の乱
1161	応保 1		北殿焼亡	法住寺殿
1166	仁安 1		北殿再造	
1173	治承 3		南殿修理・清盛法皇を鳥羽殿に幽す	
1183	寿永 2			法住寺殿焼亡
1185	文治 1			平氏滅亡
1186	2	後鳥羽	南殿破損甚し	
1187	3		北殿修造	
1201	建仁 1		南・北殿修造	
1206	建永 1		新御所造営	

鳥羽離宮略年表



調査遺構図



0 10 20 m

第3図 調査遺構図